新潟県作業療法士会学術誌　第 15 巻　26－45 頁（2021 年 1 月）

実践報告

新潟市地域包括ケア推進モデルハウスにおけるアンケート調査報告

笹川 裕美子[1)]　椿 裕子[2)]　本間 康子[3)]　松岡 大輔[1)]

＊1 新潟信愛病院

＊2 デイサービスさやわか

＊3 介護老人保健施設 尾山愛広苑

（2020 年 11 月 25 日受付，2021 年 1 月 4 日受理）

要旨

新潟県作業療法士会は平成 29 年度より「新潟市地域包括ケア推進モデルハウス」に会員の定期的な派遣を実施している．作業療法士はモデルハウスに参加する地域住民の生活上の困りごと等の相談に対応する他，運営スタッフへ体の不自由な方や認知症の方への接し方，環境づくりの助言を行っている．

令和元年度，モデルハウスにてアンケート調査を実施した結果，モデルハウスへの参加を通して地域住民同士の支え合いが広がっていること，多くの参加者は健康維持や認知症予防を期待していることがわかった．また，作業療法士の派遣により参加者の心理・行動・生活・意識に変化がみられたこと，運営スタッフは参加者の変化から作業療法士の活動効果を感じていることがわかった．本誌では，行政と連携した地域リハビリテーション活動支援事業の一例として，アンケート結果から可視化された新潟市の地域づくりの成果や作業療法士の実績・課題を報告する．

キーワード　地域づくり，住民主体，支え合い

１．はじめに

新潟県作業療法士会（以下，県士会）は新潟市（以下，市）より依頼を受け，平成 29 年度より市と地域住民が共同運営する「新潟市地域包括ケア推進モデルハウス」（以下，モデルハウス）に作業療法士（以下，OT）の定期的な派遣を実施している（以下，OT 派遣事業）．市は「地域の茶の間」の普及による住民主体の「地域の支え合いのしくみづくり」を市の地域包括ケアシステム構築の要の事業と位置付け，市内 8 区 9 ヶ所にモデルハウスを設置し，「地域の茶の間」の開設や運営を後押ししている．

OT は毎月モデルハウスに訪問し，地域住民一人一人の生活上の困りごと等の相談に対応する他，体の不自由な方や認知症の方への接し方や環境面の配慮等，運営に関する助言を行っている．

令和元年度，OT 派遣事業開始から 3 年目を迎えるにあたり，市が目指す地域づくりの成果や OT 派遣事業の実績・課題の可視化を目的に，市より了解を得てモデルハウスにてアンケート調査を実施した．

２．事業紹介

２．１．「地域の茶の間」とモデルハウス

「地域の茶の間」（以下，茶の間）は河田珪子氏（後述）が地域の支え合いを育む場として創設した，年齢や障がいの有無に関わらず誰もが参加できる居場所である．

市は運営に係る経費の一部を助成する他，茶の間を

表 1　新潟市地域包括ケア推進モデルハウスの役割

・常設型の茶の間として週2回以上開催
・多様な関係機関，団体とつながり協働を学ぶ場
・生活支援コーディネーター（支え合いのしくみづくり推進員）等の定期的な情報共有の場
・介護技術の習得，視察の受け入れ等も行う日常的な研修の場

表 2　派遣体制

派遣 OT の条件	日本作業療法士協会会員及び県士会会員であること
役割	①地域住民の生活上の困りごと等に対する個別の支援・助言 ②運営に対する支援・助言
頻度	各モデルハウスへ毎月 1 回／2 時間，OT1 名を派遣 派遣日時はモデルハウス毎に異なる

運営する人材を育成することを目的として茶の間の学校を定期的に開催している．現在，市内に 500 ヵ所以上の茶の間が開設されている [1]．茶の間には体操等の決まったプログラムはなく，一人一人が主体的に過ごす場，お互いさまの関係を築く場を目指している．

そして，市は市民一人ひとりが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちの実現を目指し，河田氏のノウハウの継承・波及し，支え合いのしくみづくりを進めるための拠点として，モデルハウスを市内 8 区 9 ヵ所に設置している（表 1）．モデルハウスでは地域包括支援センター，保健師，OT 等の専門職が定期的に地域住民の健康や生活に関する相談支援を行っている．

２．２．茶の間における OT への期待 [2]

平成 27 年の介護保険改正に伴い創設された介護予防・日常生活支援総合事業（以下，総合事業）において，リハビリテーション専門職等（以下，リハ専門職）を活かした自立支援に資する取組を推進するため「地域リハビリテーション活動支援事業」が一般介護予防事業に新たに位置づけられた．その中で，「これからの介護予防は，機能回復訓練などの高齢者本人へのアプローチだけではなく，生活環境の調整や，地域の中に生きがい・役割を持って生活できるような居場所と出番づくりなど，高齢者本人を取り巻く環境へのアプローチも含めた，バランスのとれたアプローチが重要である．」と示されている．リハ専門職は地域包括支援センターと連携し，訪問・通所サービスへの助言や地域ケア会議への参加と並んで，「住民運営の通いの場」（以下，通いの場）に定期的に関与することにより，要介護状態になっても生きがい・役割を持って生活できる地域の実現や，参加し続けることのできる通いの場を地域に展開することを求められている．

市はこれらの制度的根拠に基づき，通いの場に該当する茶の間に O T が関わることで，専門職の視点から一人一人の可能性を探り，その可能性が引き出され，生活がより豊かになることを期待している．

２．３．OT 派遣事業の経緯

平成 28 年度に実施された県士会第 23 回公開講座（協会 50 周年記念事業合同開催）にて，「地域包括ケアシステム～みんなでつくる支え合いの仕組み」をテーマに，茶の間の創設者であり新潟市支え合いのしくみづくりアドバイザーの河田珪子氏へ講演を依頼したことに端を発する．河田氏は生活の視点を持つ OT の活用を市へ推薦され，公開講座終了後，市より県士会へモデルハウスへの OT の定期的な派遣依頼を受けることとなった．市や河田氏と協議を重ね，平成 29 年 1 月より河田氏が代表を務める基幹型モデルハウス「実家の茶の間・紫竹」（東区）へ試験的に派遣を開始した．その後，各区にモデルハウスが開設され，同年 10 月には全モデルハウスへ派遣を開始し現在の派遣体制（表 2）に至った．

３．目的

①アンケートによって市が目指す住民主体の「地域の支え合いのしくみづくり」の成果や，OT 派遣事業の実績・課題を可視化し，今後の事業に反映する．

②アンケート結果を OT 派遣事業に協力している OT の意欲・資質向上や，OT の地域における活動の一助として役立てる．

(N=105) 表3　参加者の年齢層

年齢別	人（%）
30代以下	0（0）
40代	3（2.8）
50代	3（2.8）
60代	6（5.7）
70代	39（37.1）
80代	52（49.5）
90代以上	0（0）

表4　参加者の性別

(N=105)　人（%）

男性	女性
16（15.2）	89（84.8）

4．方法

4．1．対象者

全モデルハウスの参加者，運営スタッフ，派遣OTの3者を対象にアンケートを実施した．

前年度（平成30年度）のOT派遣日の最大参加数合計は約200名であったが，アンケート実施日の参加者数が当日まで分からないこと，アンケートに対する同意の有無以外にも視力・聴力低下や書字困難，認知機能低下等の理由により回答が難しい方もいることを考慮し，およそ半数（100）の回答数を目標とした．なお，参加者と運営スタッフはどちらも地域住民であり両者の線引きは難しいため，どちらのアンケートに回答するかは，それぞれの自由意思とした．

また，派遣OTは前年度の派遣OT36名を対象とした．

4．2．実施方法

4．2．1．期間

参加者および運営スタッフ向けアンケートは令和元年5～7月のOT派遣日に実施した．派遣OT向けアンケートは同年8月にメール配信にて実施した．

4．2．2．内容

基本情報（年齢，性別等），モデルハウスに関する質問，OT派遣事業に関する質問の3部構成とした（資料①②③）．

4．2．3．回答方法

該当項目選択（はい／いいえ，複数回答）または自由記載とした．

4．2．4．方法

平成30年2月，新潟市へ趣意書を提出した．同年3月に新潟市主催のモデルハウス連絡会にて新潟市，河田氏，各区の担当者，支え合いのしくみづくり推進員および各モデルハウス代表者へアンケートの趣旨について説明を行い，了解を得た．

参加者向け・運営スタッフ向けアンケートは実施前月および実施月の派遣OTへそれぞれ打合せを実施した．アンケート実施前月に運営スタッフへ，実施月に参加者へ，派遣OTより統一した説明文書に従い口頭で事前説明を行った後，アンケートを実施した．

4．3．アンケート内容（資料①②③）

4．4．倫理的配慮

①アンケートは市より承諾を得た後，各モデルハウスの代表者・運営スタッフ・参加者へ説明・了解を得て実施する．

②アンケートへの協力は回答者の自由意思であり，同意が得られなくても何ら不利益を受ける事はない．

③得られた情報は，今回の目的以外には使用しない．

④アンケート用紙は無記名で記載し，個人が特定されることはない．派遣OT向けアンケートは，回答後県士会事務局へメールで送り，事務局にて通し番号化する．

⑤アンケートへの回答をもって同意を得られたこととする．

5．結果

5．1．回答数と回答率

参加者向けアンケートの総回答数は105，運営スタッフ向けアンケートの総回答数は44であった．参加者，運営スタッフはともに地域住民であるため，アンケート実施当日の両者の参加人数（母数）の区別・把握は難しく，回答率を示すことはできなかった．

また，参加者向けアンケート両面2枚綴り（全4ページ）としたため，裏面となる2ページ目・4ページ目の質問を見落とし回答のないものが複数あり，質問項目毎の回答数にばらつきが生じた．

派遣OT向けアンケートの回答数は22，回答率は61.1%であった．

5．2．参加者向けアンケート

参加者の年齢層別割合は80歳代が49.5%と最も多く，70～80歳代を合わせると全体の85%以上を占めた（表3）．男女比は男性が15.2%，女性が84.8%と女性が多かった（表4）．

参加のきっかけは「友人・ご近所に誘われた」（46名）が最も多く全体の40%以上を占めた（表5，図1）．また，「その他」には「自分で探して参加した」という内容の記述が多かった．

表 5　参加のきっかけ

（N=105）	人（%）
友人・ご近所	46（43.8）
家族	7（6.7）
関係者	21（20.0）
推進員	4（3.8）
ポスター	7（6.7）
区役所	2（1.9）
その他	18（17.1）

表 6　参加継続の意向と理由

（n=86，無効19）　　人（複数回答）

参加継続したい	85(98.8%)	参加継続しない	1(1.2%)
楽しい	64	家族に勧められ仕方なく	0
手作業	13	付き合い	1
生きがい	35	違うことをしたい	1
おしゃべり	59	話す相手がいない	0
運動機会	18	疲れる	0
お茶	43	気を遣う	0
食事	46	何をしたらよいかわからない	0
役割	16	退屈	0
交流・仲間づくり	52	言いたいことが言えない	0
悩み相談	20	通うのが大変	0
家族との話題	11	その他	0
その他	8		

表 7　茶の間でしたいこと

（N=105）	人（複数回答）
健康維持	45
相談	15
手作業	12
お手伝い	10
おしゃべり・交流	60
仲間づくり	45
友人やご近所を誘う	27
認知症予防	51
その他	14

表 8　OT 派遣の認知度

（N=95，無効10）	人（%）
知っている	知らない
75（78.9）	20（21.1）

茶の間はどのような場所かを問う質問では，98.8%の参加者が「これからも参加したい場所」と回答した．その理由として「楽しい」が最も多く，「おしゃべりできる」，「食事ができる」，「お茶が飲める」が続いた．また，「生きがいを感じる」「悩みを聞いてもらえる」「体を動かしたい」「役割がある」等，全ての選択項目で一定数の回答があった（表 6，図 2）．

参加者が今後茶の間でしてみたいことは，「おしゃべり・交流したい」が最も多く，「認知症を予防したい」，「健康を保ちたい」，「人付き合いを広げたい」が続いた．また，参加者の 4 人に 1 人が「友人や近所の人を誘いたい」と回答した（表 7，図 3）．

OT 派遣事業の認知度は 78.9%であり（表 8），「OT

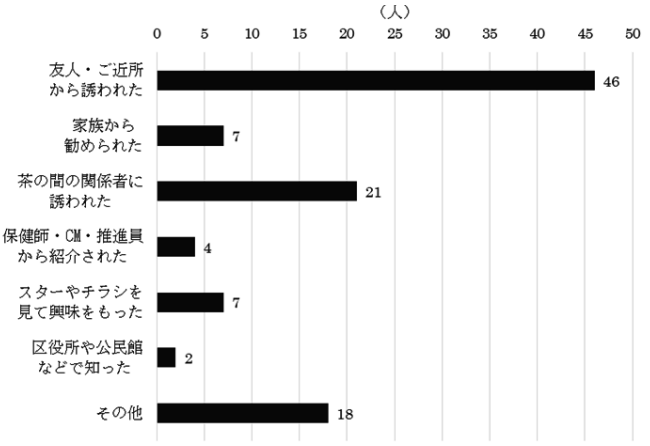

図 1　参加のきっかけ（N＝105）

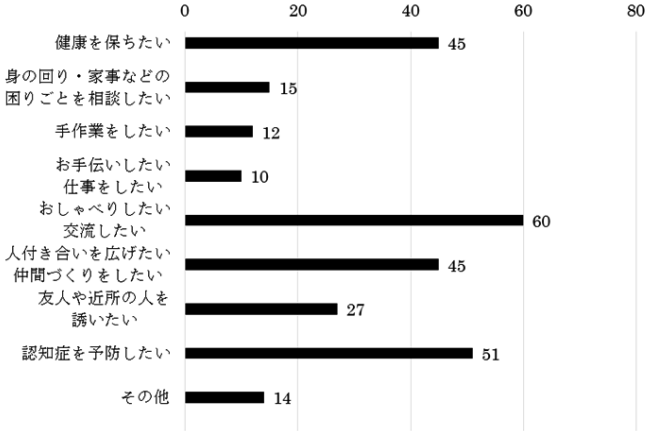

図 2　参加継続したい理由（複数回答可）

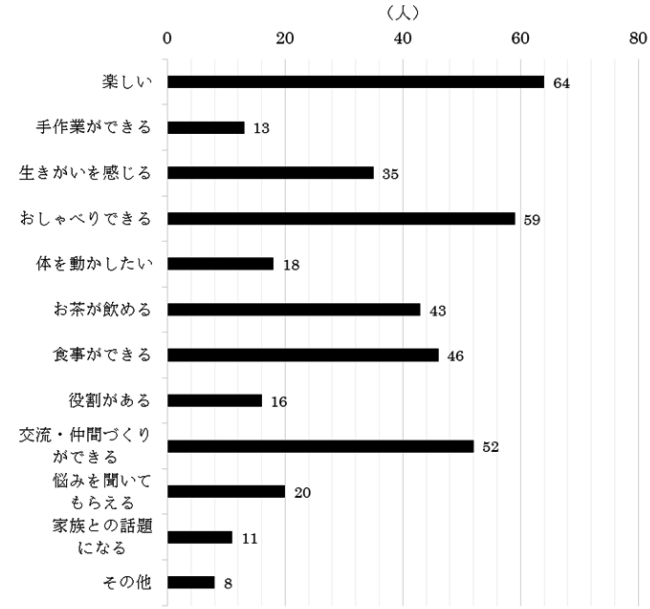

図 3　今後，茶の間でしてみたいこと（複数回答）

と話したり，アドバイスを受けたことのある」と回答した人は 60.0%であった．相談内容は「体のこと」，「病気」，「認知症」，「日常生活」が多かった．また，「人付き合い」，「趣味」，「外出」，「立ち座り」，「家事」，「制

表 9　OT への相談の有無

（N=90，無効15）　　人（「ある」：複数回答）

ある	54(60.0%)	ない	36(40.0%)
体のこと	26	相談できることを知らなかった	8
病気	18	何を相談してよいかわからない	6
日常生活	12	相談したいが話しにくい	1
立ち座り	7	その他	7
外出手段	8	・特に相談することがない	
家事	7	・OTが何をする人なのかわらない	
趣味	9	・OTから良い話を聴きたい	
仕事	3		
認知症	16		
家族	3		
人付き合い	11		
制度	5		
その他	5		

表 10　相談後の変化

（N=43，無効11）　　人（「変化あり」：複数回答）

変化あり	35(81.4%)	変化なし	8(18.6%)
助言を心がけている	18	理解できたが続けられない	1
動きが楽になった	5	難しく理解できない	0
生活しやすくなった	9	生活は変わっていない	3
やる気が出た	12	特に相談はしていない	5
できなかったことができるようになった	6	悩みが続いている	2
気が楽になった	19	その他	3
安心した	16		
誰かの役に立ちたい	8		
誰かに助けを求めてもいいと思える	8		
その他	2		

表 11　今後 OT に相談したいこと

（N=105）	人（複数回答）
体のこと	26
病気	21
日常生活	11
立ち座り	15
外出手段	7
家事	5
趣味	10
仕事	2
認知症	25
家族	6
人付き合い	20
制度	12
その他	10

表 12　運営スタッフの年齢層

（N=44）

年齢別	人（%）
20代	1（2.3）
30代	0（0.0）
40代	3（6.8）
50代	2（4.5）
60代	12（27.3）
70代	24（54.5）
80代	2（4.5）
90代以上	0（0.0）

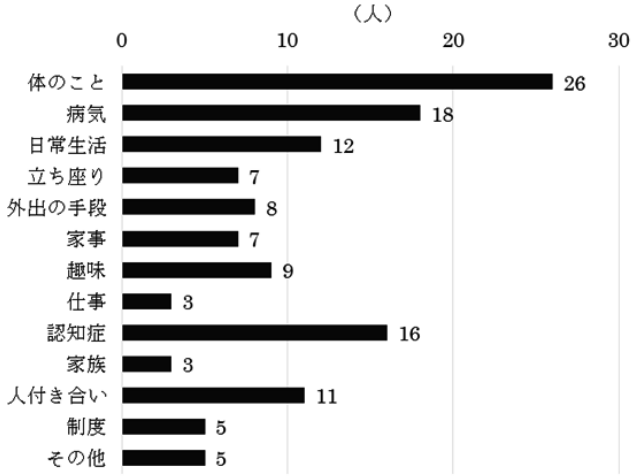

図 4　OT への相談内容（複数回答）

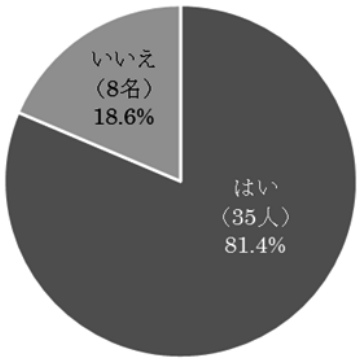

図 5　OT 介入後の変化の有無（N＝43，無効 11）

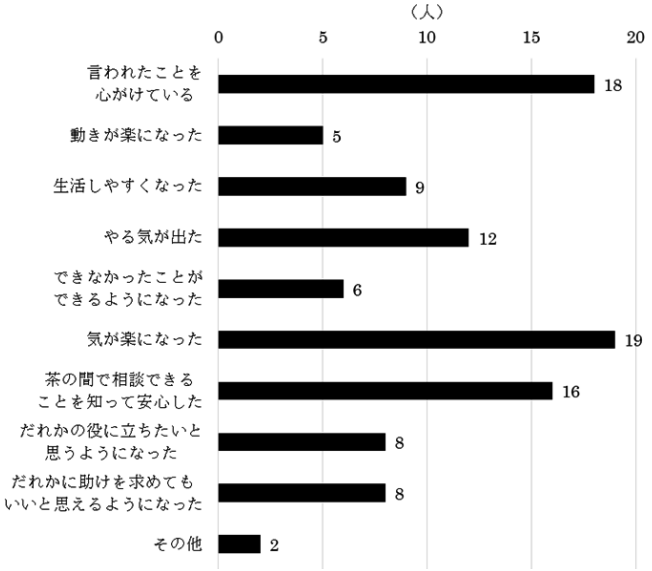

図 6　OT 介入後の変化内容（複数回答）

度」等，相談内容は多岐にわたっている（表 9，図 4）．

「OT と話したり，アドバイスを受けたことのある」と回答した参加者のうち，81.4%の方が「変化があった」と回答した（図 5）．どのような変化があったかを問う項目では，「気が楽になった」，「言われたことをこころがけている」，「安心した」，「やる気がでた」が多

表 13　運営スタッフの性別

(N=44)	人(%)
男性	女性
9（20.5）	35（79.5）

かった．さらに「生活しやすくなった」，「だれかの役に立ちたいと思うようになった」，「だれかに助けを求めてもいいと思えるようになった」，「できなかったことができるようになった」，「動きが楽になった」という回答が続いた（表 10，図 6）．

一方，「OT に相談したことがない」と回答した参加者は，その理由として，「相談できることを知らなかった」，「何を相談してよいかわからない」という回答であった．　また，「OT と話したが変化がなかった」と回答した参加者は，その理由として，「話はするが特に相談はしていない」，「話を聞いてもらい安心したが，生活は変わっていない」，「悩みや不安が続いている」という回答であった．「その他」には「納得する回答は得られなかった」という記述がみられた．一方，「アドバイスが難しく，あまり理解できなかった」と回答した人はいなかった（表 10）．

今後 OT に相談したいことは，「体のこと」，「認知症」，「病気」，「人付き合い」が多く，「立ち座り」，「日常生活」，「趣味」，「外出の手段」，「家事」が続いた．これは前述の「今後，茶の間でしたみたいこと」という質問の回答とほぼ一致する結果であった（表 11）．

５．３．運営スタッフ向けアンケート

運営スタッフの年齢層別割合は，70 歳代が 54.5%と最も多く，60 歳以上が全体の 80%以上を占めていた．30～50 歳代も一定数みられた（表 12）．男女比は男性 20.5%，女性 79.5%であり，女性が多かった（表 13）．

モデルハウスの運営で心がけていることは，「誰でも受け入れる」，「居場所づくり」，「居心地よく」，「和やかな雰囲気」，「明るく楽しく」，「笑い声が絶えない」，「食事づくり」，「活動の工夫」，「地域への発信」，「対応の心構え」等が挙げられ，運営スタッフは主体的かつ意欲的にモデルハウスの運営に取り組んでいることがわかった（表 14）．

運営で苦労していることは，「スタッフ不足」，「移動手段の問題」，「参加者数」，「参加者の固定化」，「対応技術」，「構造上の制限」，「今後の運営」等が挙げられた．

OT 派遣事業については，「満足している」，「まあまあ満足」を合わせると全体の 80%以上であった．「あまり満足していない」，「満足していない」と回答した人はいなかった（図 7）．

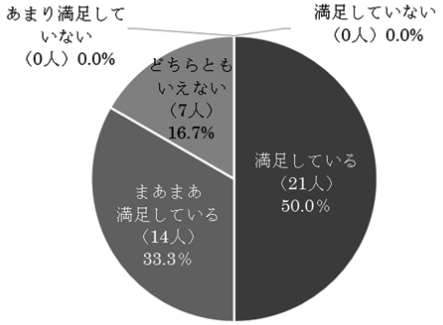

図 7　OT の満足度（N＝42，無効 2）

また，「OT の訪問により茶の間に変化があった」と回答した人は 76.5%であった（表 15）．その理由として，「参加者が OT に相談し助言を受けて喜んでいる」，「OT の訪問を楽しみにしている」，「茶の間が賑やかになった」等が挙げられ，運営スタッフは参加者の様子の変化から OT の活動効果を感じていることがわかった（表 16）．

今後 OT に期待していることは，参加者の相談への対応，心身に障害のある参加者の対応方法の助言が多く，市より求められている派遣目的と一致していた（表 17）．

５．４．派遣 OT 向けアンケート

派遣 OT の年齢層別割合は，30 歳代が最も多く，次に多い 40 歳代と合わせると全体の 80%以上を占めていた（表 18）．男女比は男性が 27.3%，女性が 72.7%と女性が多かった（表 19）．経験年数は 3～5 年，6～10 年，11～15 年がそれぞれ同数で全体の 80%以上を占めていた（表 20）．所属領域は身体障害領域，高齢・介護保険領域が多かった（表 21）．

派遣 OT が派遣開始前に茶の間に抱いていたイメージは「身近な地域に開かれ，高齢者を主として誰もが気軽に集い，お茶を飲みながらおしゃべりや交流を自発的に楽しむ場」と要約され，実際の様子と概ね一致していた（表 22）．

しかし，派遣開始当初，総合事業における通いの場の知識や，地域リハビリテーション支援事業を根拠とする事業であることへの理解が不十分であったこと，参加者や運営スタッフが OT の専門性や派遣目的について十分に認識していないこと，必ずしも参加者から相談があるとは限らないこと，決まったプログラムがない等，モデルハウス独自のルールに戸惑いや不安を感じた OT が多かった．

工夫したこととして，専門職としてではなく一人の参加者として場に馴染み，自然な会話の中から生活上の困りごとを汲み取り，助言を心がけているという回

表 14　モデルハウスの特色・取り組んでいること　（N＝44）

キーワード	内容
「誰でも」	・誰もが来られる場所
「多世代」	・子どもから高齢者までいろんな人に来てもらって大変よい
	・どなたでも受け入れる
	・誰でも参加できる
	・様々な世代が来るための仕掛けを検討している
	・誰が来ても受け入れる
	・誰がいつ来ても居心地の良い空間づくり
	・男性の参加者が多い
「安心」	・隣近所や知らない人同士でも仲良く，立ち入り過ぎず安心して過ごせる
「和やか」	場所であるように
「居心地」	・安らげるように季節ごとの飾りつけをしている
	・和やかな雰囲気づくり
	・居心地がよい
	・誰がいつ来ても居心地の良い空間づくり
	・また来てみたいと言われる人が増えるといい
「楽しい」	・茶の間に来て楽しい思いで帰ってもらえるように心がけている
「賑やか」	・来た人が「楽しかった！また来るね」と喜んでもらえる雰囲気づくり
「明るい」	・来ていただく方に楽しんで帰ってもらいたい
「笑顔」	・皆さん，楽しく和やかにやっている
「笑い声」	・いつも笑い声が絶えない茶の間
	・皆さんが明るく笑顔で笑い声でいっぱい
	・来られた方が楽しんで帰れるように
	・利用者さんが楽しく，和気あいあいと過ごしてもらえるように
	・いろんなことをやり，賑わっている
「食事」	・食事がうまい
	・日替わりごはん
	・費用をかけずに楽しく食事作り
	・食事がとても良い
	・昼ご飯は皆さんの持ち寄りで分け合って食べ，茶の間からも時々味噌汁，炊き込みご飯，ちらし寿司等のサービスをしている
	・我が家の食事のように何か特別なことはしていない
	・主婦のランチ作り
	・コーヒー，ケーキの販売
「行事」	・ボランティアの人から来てもらう
「活動」	・参加者と一緒に布ぞうり作り
	・外部の行事にもなるべく参加している
	・季節に合ったものを取り入れている（ひなまつり会，団子作り等）
	・落語，昔語り，折り紙，オカリナなど
	・フリーマーケットの受け入れ
	・毎月のバザール
	・ラジオ体操
	・相談会，折り紙，習字など
	・月に何回か特別メニューがある
	・多世代交流
	・国内外の旅行者の訪問・交流
	・手作業（折り紙等）を皆と楽しく取り組んでいる
	・菜園作り
	・凧合戦の時のカフェ
	・思い出が展示されているアーカイブスペースがある

表 14　つづき

「広報」	・町の中心にある
「発信」	・モデルハウスとしてノウハウを地域全体に普及させる工夫をしている
	・地域ミニコミ誌で情報発信
「対応」	・心くばり，気くばり，相手の気持ちを思いやる
	・できることを，できる人が，できる時に
	・独りぼっちにならないように
	・助け合いお互い様
	・スタッフ全員が笑顔
	・参加者から色々な話を聞くことができ，ためになる
	・一人一人のお話に耳を傾けるようにしている
	・大勢の人と会話をしている
	・利用する人が自分の力を使って主体的に動けるような仕掛けがある
	・お茶を出したり，配膳をしたり，会場作りをしている
	・昔お店だった場所を活用しているため，昔からこの場所を知っている人がスタッフをしている

表 15　OT 介入後の変化

（N=34，無効 10）　人（%）

変化あり	変化なし
26（76.5）	8（23.5）

答が多かった．また，各モデルハウスの状況や希望に合わせて手工芸や座談会等の活動を取り入れることで，個々にお話を伺うだけでは把握しきれない生活状況や関係性等の情報を得て，本来の目的である個別の相談対応に反映している，参加者同士で困りごとやそれに対する工夫や智恵を共有し合うことができるように促している，OT の専門性や派遣目的についての説明を繰り返し行っている，という回答があった．

一方で，幅広い相談内容に応えるための経験・知識・技術の不足や負担を感じている OT も少なくない．また，派遣頻度が少ない OT ほど，活動効果を感じられない傾向がみられた．

OT 派遣事業を経験して良かったこととして，OT の新しい職域として地域の特色や地域住民の生活を知ることができたこと，同じ地域で働く OT 同士や地域で活動する関連職種との連携を深めることができたこと，経験を普段の臨床業務に還元することができるようになった等の回答があった．また，OT を地域の側から見直すことにより，OT の役割や可能性を再認識したという回答もあった．

今後の展望として，モデルハウスとしての機能の強化や，地域との新たなつながりの創出等の取り組みに参画し始めているという回答があった．その他，住民主体の運営のサポート，集団の活用，男性や多世代の参加を増やす取り組み，OT の専門性や派遣目的の周知等が挙げられたが，具体的提案を示すには至らなかった．

OT が地域でできることとして，地域と医療・介護・福祉を「つなぐ」役割という回答が多かった．

６．成果と課題

モデルハウスにおけるアンケート結果から，市の茶の間の普及による地域づくり，および OT 派遣事業の成果として以下の三点が挙げられる．

一つ目は，茶の間を通して地域の支え合いが広がっている，という点である．モデルハウスでは多くの参加者が「友人やご近所に誘われて」参加につながっており，人とのつながりや居場所を求めて参加している．また，「友人や近所の人を誘いたい」，「だれかの役に立ちたいと思うようになった」「だれかに助けを求めてもいいと思えるようになった」等，個人的な利益・享受（自助）に留まらず，地域の支え合い（互助）の意識が生まれている．これらの結果は，市が目指す住民主体の「地域の支え合い」が広がっていることを示しているといえる．

二つ目は，運営スタッフは住民主体の茶の間の運営に取り組んでいる，という点である．誰もが参加しやすい居場所を目指して，明るく和やかな雰囲気づくり，活動の工夫，地域に向けた発信，対応の仕方等，運営スタッフも茶の間という場で，役割や生きがいを持ちながら参加している様子がアンケート結果に表れている．

三つ目は，OT 派遣事業により，参加者に心理・行動・生活・意識の変化がみられていること，また運営

表 16　OT 介入後の変化の内容

（N=34，無効 10）

キーワード	内容
「相談」	・参加者が**相談**したりしている
	・気軽に話（**相談**）ができる
	・皆さんが自身の**相談**事をするようになり，**ためになっている**ようだ
	・皆さんと会話しながら具合の悪い所の**相談**をしている声が聞こえてきて いいなぁと思う
	・利用者の**相談**に親身になって話を聞いてもらい**大変喜んでいる**様子を見て こちらも嬉しくなる
	・**相談**したい内容を**理解できるようになった**
	・作業療法士に**相談**できて良かったと**喜んでいた**
	・具合によってアドバイスをしてくれるので来られた方が**相談**している姿がみられる
	・皆さんが健康や生活に対して**疑問や悩みを話し**，それに応えてくれていて**効果大**
	・最初は相談する人も少ないようだったが最近は**相談する人が増えた**ようだ
	・**病院に行かなくても疑問が聞けて良い**のでは
「楽しみ」	・作業療法士のお話を**楽しみ**にして来られる方がいる
	・作業療法士が来る日を**待っている**人がいる
	・作業療法士のお話を聞くのを**楽しみ**に参加される方が多い（訪問がない日と 比べて平均 **30%増し**）
	・月に 1 回の訪問が**楽しみ**
「意識の変化」	・茶の間の利用かたわら**医療に関心を持つようになった**
「様子の変化」	・自身の病に関し，**前向きに考えられるようになった**
「行動の変化」	・皆**参加するようになった**と思う
	・声を出して**助けてと言えるようになった**方もいると思う
	・**食事等に気をつけるようになった**
	・参加者の方が**元気になった**感じがする
	・他の方と**交流できるようになった**
「雰囲気の変化」	・さらに**賑やかになった**
	・利用者さんが**楽しそう**に会話し**笑い声**が沢山聞こえる
	・**顔なじみの関係**ができていると思う
その他	・作業療法士に茶の間の存在を知ってもらったことも大きな収穫
	・運営のサポートに協力していただいている（月 1 回の役員会に出席）
	・作業療法士の存在は病院に行かないとわからないが，来ていただくと病院にかかる 前から知ることができて安心感が生まれると思う
	・ボランティア，専門職，いろいろな人たちが同じ場所で時間を共有していることの 大切さを身近に感じ取れる
	・ほとんど台所にいるのでよくわからない

表 17　今後 OT と取り組みたいこと

（N=105）	人（複数回答）
参加者の相談対応	30
運営のサポート	8
趣味活動	10
心身の不自由な参加者の対応	20
地域づくり	11
その他	5

表 18　派遣 OT の年齢層

（N=22）

年齢別	人（%）
20代	2（9.1）
30代	12（54.5）
40代	6（27.3）
50代	2（9.1）
60代	0（0.0）

表 19　派遣 OT の性別

（N=22）　人（%）

男性	女性
6（27.3）	16（72.7）

表 20　派遣 OT の経験年数

（N=21，無効 1）　人（%）

2年未満	0（0.0）
3～5年	1（4.7）
6～10年	6（28.6）
11～15年	6（28.6）
16～20年	6（28.6）
21年以上	2（9.5）

表 21　派遣 OT の所属領域

（N=22）　人（%）

身体障害	10（45.5）
高齢・介護保険	9（40.9）
発達障害	0（0.0）
精神障害	3（13.6）
福祉	0（0.0）
その他	0（0.0）

表 22　派遣開始前の茶の間のイメージ

（N=22）

・外出機会の少ない（受診以外外出機会が無い等）高齢者が集うイメージ
・わいわいと賑やかな雰囲気で，高齢者の方たちが気軽に立ち寄れる場所
・地域の方々が活動的にされている場
・エネルギッシュな場のように感じた
・高齢者の集いの場所
・地域の高齢者が集まって，茶飲みなどしながら過ごす場所
・地域の顔なじみ同士が集まり，お茶を飲みながらおしゃべりを楽しんでいる所
・地域住民の集いの場．お茶を飲みながらおしゃべりをする気兼ねのない場所
・何か作業をするようなところでなく，住民同士の会話の場
・その地域のご老人がどなたでも気軽にお茶を飲みながら集う場
・地域のお年寄りの方が集い一緒に過ごす場．老人会的な印象
・地域の住民が自立的に動き，準備や調理などをしながら交流を楽しむ場
・地域住民が気軽に集まる憩いの場
・誰でも参加でき，参加住民が自発的に動きながら交流できる場
・地域の住民が集う場
・どの年齢層も集うことができる居場所．遊びに行ける場所
・利用者は高齢者がほとんどで，身体機能が比較的保たれていて，コミュニケーション可能（お話好き）な方の集まり
・地域の集まる場で参加者同士で交流したり楽しむ場．
・スタッフの方が先頭に立って物事を決めたりする印象
・茶の間，老人クラブ，サロン，同じような集まりの様々な名称があるが具体的な違いが分からなかった．モデルハウスという言葉にピンとこかったり，介護予防の制度とどういう関連や位置づけとなっているか分かりにくい部分が多く，ぼんやりと漠然としたイメージを持っていた．現在もまだ払拭できていない．
・当初は茶の間に来ている地域の方が主体となって行う事業とのことで，作業療法士としてどのように介入していけばよいのかわからなかった．
・良い取り組みであると思ったが，作業療法士として何をすればよいのかよく分からなかった．

スタッフは参加者の変化からOTの活動効果を感じており，今後も多様な相談への対応を期待している，という点である．

多くの参加者は，茶の間への参加を通して健康の維持や認知症の予防効果を期待している．しかし，維持や予防は手段であり目的ではない．総合事業では維持や予防の先にある一人ひとりの生活や生きがいに目を向けた支援が求められている．OT は期待に応え支援ができる専門職である．

次に，課題として以下の三点が挙げられる．

一つ目は，参加者の固定化である．茶の間は「子どもからお年寄りまで」を対象としているが，参加者の85%以上が70歳以上の高齢者であった．また，「参加者が増えない」，「男性の参加者が増えない」，「参加者が固定化・グループ化している」等を課題に挙げた運営スタッフが多かった．

二つ目は，OT の認知不足である．派遣 OT は専門性や派遣目的を参加者や運営スタッフに伝える工夫を続けているが，OT 派遣事業開始から3年が経過しても「OT に何を相談してよいかわからない」，「OT が何をする人かわからない」等の理由から相談に至らない，あるいは必要性を感じていない参加者が一定数みられた．

三つ目は，OT の資質向上である．市は，茶の間の普及による支え合いのしくみづくりを市の地域包括ケアシステム構築の要の事業と位置づけている．しかしながら，派遣開始当初，総合事業，通いの場，地域リハビリテーション活動支援事業といった根拠となる制度の知識・理解が不十分であったことから，関わり方に戸惑いや不安を感じる OT が多かった．また，臨床領域以外の相談内容に幅広く対応するための知識・経験や，簡潔にわかりやすく伝える技術等の力量不足を感じている OT も少なくない．

7．今後の展望

茶の間は，子どもから高齢者まで障害の有無や国籍等を問わず誰もが参加できる場，人と人が知り合い，お互いの不自由さを知り合うことから，自然な助け合いが生まれる場，それぞれの人の役割を引き出し，生きがいが生まれてくる場，である[3]．茶の間の参加者も運営スタッフも地域住民であり，皆が茶の間という「場」の利用者として，「お客様（客体）を作らないこと」，「お互いさまの関係（相互性）」を大事にしている．

一方，運営スタッフは「参加者が増えない」ことを課題として挙げている．参加者が増えることは望ましいことではあるが，茶の間の立地条件や建物の構造上の制限等によっては，参加人数の増加が見込めない場合もある．参加人数は客観的な指標になり得るため，「数」を「実績」と捉えやすく，運営スタッフは参加者を募るための広報に取り組んでいる．しかし，アンケート結果から，実際には運営側の広報よりも地域住民同士の支え合いから参加につながっている人が多いことがわかった． このことから，OT が茶の間で参加者一人一人の生活や生きがいを支援すること，要介護状態になっても参加し続けることができる環境づくりをお手伝いすることによって，参加者のエンパワメントにつながり，そうした参加者から地域に「口コミ」で伝わっていくことによって，参加者の増加や，地域住民同士の支え合いが広がると考えられる．

そして OT もまた，茶の間で得た知識や経験を臨床に還元したり，他の地域リハビリテーション活動支援事業へ活用していることから，専門職という一方的な立場ではなく，茶の間の相互性の中でエンパワメントされているといえる．OT も茶の間の参加者の一人として場に馴染みながら，地域住民一人一人に寄り添い，自然な会話の中からその人の生活や状態を把握し，その人固有の作業を引き出す関わりに努めている．OT は「理学療法士及び作業療法士法」により，医師の指示なく対象者に直接的介入（体に触れ治療を施す等）を行うことはできない[4]．茶の間においても，観察や面接による評価，一般的な動作指導，環境調整や運営に関する助言等の間接的介入となる．そのため，住民主体の運営を支援できるよう，運営スタッフへ OT の視点を伝えていくことが重要である．

また，伝えるだけでなく，つなぐ役割は茶の間における OT の重要な役割である．気づいたことを地域包括支援センターや保健師等の茶の間に関与する専門職間で情報共有し，必要な方に地域と医療・介護・福祉の橋渡し役として機能することにより，重症化を予防することができると考える．

8．結論

1）茶の間への参加を通して地域住民に支え合いの意識が広がっている．

2）参加者は茶の間への参加を通して健康維持や認知症予防に対する期待が高い．

3）代表者・運営スタッフは主体的・意欲的にモデルハウスの運営に取り組んでいる．一方で，参加者数が増えないことや参加者の固定化，スタッフ不足等の課題を抱えている．

4）OT が定期的に茶の間に関与することにより，参加者の心理・行動・生活に変化がみられるようになって

いる．また，運営スタッフは参加者の変化から OT の活動効果を感じている．

5）OT は，今後も参加者一人ひとりの多様な相談に対応しながら，その人固有の作業を引き出す関わりに努めていく．また，運営スタッフや関連職種と連携し，「相互性」が作用する地域づくりを支援していく．

９．おわりに

令和２年度はアンケート結果をふまえた事業展開を検討していたが，新型コロナウイルス感染症の影響により，上半期の派遣を中止することとなった．そこで，派遣 OT を対象に，これまでの派遣経験から事例集を作成することにより，アンケートとは異なる形で実績の可視化を試みている．

最後に，アンケート実施に際し，新潟市や河田氏をはじめ，各区の担当者，支え合いのしくみづくり推進員，各モデルハウスの代表者，運営スタッフ，参加者の皆様等，多くの方々よりご理解とご協力を頂き，心より謝意を述べたい．

10．文献

1）新潟市ホームページ：地域包括ケアシステム．（オンライン），入手先〈https://www.city.niigata.lg.jp/iryo/korei/chiikihokatsucare/index.html〉，（参照 2020-11-24）

2）厚生労働省ホームページ：介護予防・日常生活支援総合事業 ガイドライン（概要）．（オンライン），入手先〈https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/0000088276.pdf〉，（参照 2020-11-24）

3）厚生労働省老健局老人福祉課：第２回一般介護予防事業等の推進方策に関する検討会議事録，2019.

4）厚生労働省：理学療法士及び作業療法士法，第一章第二条４項，1963.

資料①

茶の間のアンケート

１．あなたのことをお聞きします。

問１ あなたの年齢について、当てはまるものに「〇」をつけてください。

- □ 20歳未満
- □ 20代（20～29歳）
- □ 30代（30～39歳）
- □ 40代（40～49歳）
- □ 50代（50～59歳）
- □ 60代（60～69歳）
- □ 70代（70～79歳）
- □ 80代（80～89歳）
- □ 90歳以上

問２ あなたの性別について、当てはまるものに「〇」をつけてください。

□ 男性　　□ 女性

２．あなたが参加している茶の間についてお聞きします。

問３ あなたが茶の間に参加するようになったきっかけは何ですか？
当てはまるもの**１つに**「◯」をつけてください。

- □ 友人・ご近所から誘われた
- □ 家族に勧められた
- □ 茶の間の関係者に誘われた
- □ 保健師、ケアマネージャー、支え合いのしくみづくり推進員から紹介された
- □ ポスターやチラシを見て興味をもった
- □ 区役所や公民館などで知った
- □ その他（　　）

問４　あなたにとって、茶の間はどのような場所ですか？
当てはまるものに「〇」をつけてください。
また、その理由として当てはまるもの**全てに**「〇」をつけてください。

□ これからも参加したい場所

＜参加したい理由＞

□ 楽しい
□ 手作業ができる
□ 生きがいを感じる
□ おしゃべりできる
□ 体を動かしたい
□ お茶が飲める
□ 食事ができる
□ 役割がある
□ 交流や仲間づくりができる
□ 悩みを聞いてもらえる
□ 家族との話題になる
□ その他
（　　）

□ あまり参加したくない場所

＜参加したくない理由＞

□ 家族に勧められて仕方なく来ている
□ 付き合いで参加している
□ もっと違うことをしたい
□ 話す相手がいない
□ 疲れる
□ 気を遣う
□ 何をしてよいか分からない
□ 退屈
□ 言いたいことが言えない
□ 通うのが大変
□ その他
（　　）

問５　あなたは、これから茶の間でしてみたいことはありますか？
当てはまるもの**全てに**「〇」をつけてください。

□ 健康を保ちたい、体や病気のことについて相談したい
□ 身のまわりのことや家事などの困りごとを相談したい
□ 手作業をしたい
□ お手伝いをしたい、仕事をしたい
□ おしゃべりしたい、交流したい
□ 人付き合いを広げたい、仲間づくりをしたい
□ 茶の間に参加したことのない友人や近所の人を誘いたい
□ 認知症を予防したい
□ その他（　　）

３．茶の間に訪問している作業療法士についてお聞きします。

問６　あなたは、作業療法士が**定期的に**茶の間に訪問していることを知っていますか？

□ はい　　□ いいえ

問７　あなたは、茶の間で作業療法士と話したり、アドバイスを受けたことがありますか？

□ はい

どのような話をしたことがありますか？あてはまるもの**全てに**「〇」をつけてください。

□ 体のこと（衰え、痛みなど）
□ 病気（高血圧、リウマチなど）
□ 日常生活や身のまわりのこと（食事、排泄、入浴、着替えなど）
□ 立ち座り（ふらつくなど）
□ 外出の手段（バス、自転車など）
□ 家事（買い物、電球の交換など）
□ 趣味
□ 仕事
□ 認知症（予防したいなど）
□ 家族（介護のストレスなど）
□ 人付き合い（友人、ご近所など）
□ 制度（介護保険など）
□ その他
（　　）

□ いいえ

それはどのような理由ですか？あてはまるもの**１つに**「〇」をつけてください。

□ 相談できることを知らなかった
□ 何を相談してよいかわからない
□ 相談したいことがあったが、話しにくかった
□ その他
（　　）

※４ページの 問９ に進んでください。

問８　問７で「はい」と答えた方のみ、お答えください。
作業療法士と話をしたり、アドバイスを受けて、変化はありましたか？

□ はい

それはどのような変化ですか？
当てはまるもの**全てに**「〇」をつけてください。

□ 言われたことを心がけている
□ 動きが楽になった
□ 生活しやすくなった
□ やる気が出た
□ できなかったことができるようになった
□ 気が楽になった
□ 茶の間で相談できることを知って安心した
□ だれかの役に立ちたいと思うようになった
□ だれかに助けを求めてもいいと思えるようになった
□ その他
（　　）

□ いいえ

それはどのような理由ですか？
当てはまるもの**全てに**「〇」をつけてください。

□ アドバイスは理解できたが、なかなか続けられない
□ アドバイスが難しく、あまり理解できなかった
□ 話を聞いてもらって安心したが、生活は変わっていない
□ 話はするが、特に相談はしていない
□ 悩みや不安が続いている
□ その他
（　　）

問９　あなたは、今後、作業療法士にどのような話をしてみたいですか。
当てはまるもの**全てに**「〇」をつけてください。

□ 体のこと　□ 病気のこと　□ 身の周りのこと
□ 立ち座り　□ 外出の手段　□ 家事
□ 趣味　□ 仕事　□ 認知症
□ 家族のこと　□ 交流・人付き合い　□ 制度のこと
□ その他（　　）

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

4/4

資料②

茶の間のアンケート（関係者向け）

１．あなたのことをお聞きします。

問１　あなたの年齢について、当てはまるものに「〇」をつけてください。

- □ 20 代（20～29 歳）
- □ 30 代（30～39 歳）
- □ 40 代（40～49 歳）
- □ 50 代（50～59 歳）
- □ 60 代（60～69 歳）
- □ 70 代（70～79 歳）
- □ 80 代（80～89 歳）
- □ 90 歳以上

問２　あなたの性別について、当てはまるものに「〇」をつけてください。

□ 男性　　□ 女性

２．あなたの茶の間についてお聞きします。

問３　あなたの茶の間の特色や、取り組んでいることを教えてください。

（　　）

問４　茶の間の運営で苦労されていることはありますか？

（　　）

３．茶の間に訪問している作業療法士についてお聞きします。

問５　あなたは、作業療法士の訪問に満足していますか？
当てはまるもの**１つに**「〇」をつけてください

- □ 満足している
- □ まあまあ満足している
- □ どちらともいえない
- □ あまり満足していない
- □ 満足していない

問６　茶の間に作業療法士が訪問するようになって、変化したことはありますか？

□ はい　　□ いいえ

「はい」と答えた方のみ、お答えください。

どのような変化がありましたか？

（　　）

問７　今後、作業療法士と一緒に取り組みたいことは何ですか？

- □ 参加者の相談に応じてアドバイスしてほしい
- □ 運営のサポートをしてほしい
- □ 参加者の趣味活動を広げてほしい
- □ 身体の不自由な方や、認知症の方などの対応について相談に乗ってほしい
- □ 地域づくり
- □ その他（　　）

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

資料③

（公社）新潟県作業療法士会
2019年度　新潟市地域包括ケア推進モデルハウス派遣事業
派遣会員アンケート

１．あなたのことをお聞きします。

問１　あなたの年齢について、当てはまるものに「?」をつけてください。

- □ 20代（20～29歳）
- □ 30代（30～39歳）
- □ 40代（40～49歳）
- □ 50代（50～59歳）
- □ 60代（60～69歳）

問２　あなたの性別について、当てはまるものに「?」をつけてください。

- □ 男性
- □ 女性

問３　ＯＴ経験年数について、当てはまるものに「?」をつけてください。

- □ 2年未満
- □ 3～5年
- □ 6～10年
- □ 11～15年
- □ 16～20年
- □ 21年以上

問4　あなたの所属領域について、当てはまるものに「?」をつけてください。

- □ 身体障害領域
- □ 高齢・介護保険領域
- □ 発達障害領域
- □ 精神障害領域
- □ 福祉領域
- □ その他　（　　）

２．モデルハウス派遣事業についてお聞きします。

問5　派遣当初、「茶の間」に対してどのようなイメージを持っていましたか？

問6　実際に「茶の間」に行ってみて、当初のイメージや日頃の臨床との違いに戸惑いや不安はありましたか？

問7　対応に苦労したり、困ったことはありましたか？

問8　作業療法士として、モデルハウスでできたこと、工夫したことはありますか？

問9　モデルハウスへの派遣経験を通して、良かったと思うことはありますか？

問10　今後、派遣されているモデルハウスで、どのような可能性や展開を考えていますか？

3．作業療法士の地域支援活動についてお聞きします。

問11　今後、作業療法士は地域で何ができると思いますか？

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。